

京都中央チャペル 週報

50th Anniversary!!

Miracles

New Creation Church Weekly Report since 1997

ἐκκλησία

2007年9月2日 No.502

スタウロス（十字架）・プラン

主任牧師 藤林いざや

本日は、納涼Praise Festival 2007本番です。お陰様で、チケットは完売しました。満席の会場で、熱い賛美が捧げられ、福音直球勝負になります。期待しましょう。祈りましょう。何よりも教会のゴスペル・クワイアーは、伝道の働きです。福音の実りとして、イエス・キリストを信じて救われる方が起こされるように、期待して臨みましょう。

さて、ライズ・アップ・ジャパンも近づいてきました。でも、ちょっとその前に、京都福音教会の50周年記念聖会が、24日に行われます。是非参加しましょう。

今回この機会に合わせて、50周年記念誌を発行する運びとなりました。主の恵みによって、どのような歩みが積み重ねられたか、これを噛み締める記録です。心躍らせながら、お読み下さい。恵まれます。

証もそれぞれが個性溢れたものでした。京都福音教会から巣立って行かれた牧師様方の一文一文は、味わい深いものでした。そして、大生が中心的に纏めさせて頂いたのが、年譜です。50年の歴史のダイジェスト版です。時間がかかりました。一回目のダイジェストを造るにも、20時間以上要しました。でも、恵みがひとしおでした。

京都福音教会は、1970年代に100名から倍増していく歩みを辿ります。確かに、1961～1964年の4年間で230名ほどの受洗者を出しています。教会の

礼拝出席が30名そこそこであったことを勘案しますと、驚異的な数字です。でも、100名近くへは成長しましたが、その主要な力は外部への開拓伝道へ向けられていきました。ですから、本体教会が成熟していくのには、もうしばらくの時が必要だったのです。

で、1970年代後半に大きな成長期を迎えます。受洗者がそのまま成長に直結していくような流れです。取り分け、藤林邦夫師と大倉昭元師との義理の兄弟タッグが、非常に効果的に噛み合っていたと言えましょう。そして、1980年初頭に、京都福音教会が最も華やぐ時期を迎えるのです。

1981年のクリスマスです。丸太町七本松の京都市社会教育総合センターで、大人も子どもも合同のクリスマス祝会を催しました。何とこの時、550名の出席を数えたのです。確かに、言われてみれば、おぼろげではありますが、異様に人が多かった思いがあります。大生が17歳、高校2年生のことでした。これが、最高レコードです。この前年の1980年のクリスマスも、9つの区域で、320名が集っています。平均も220～230名を数えていた時期です。

そして、このような鰻登りの成長において、千名教会へ、というヴィジョンが打ち上げられるのです。ただ、大倉師が大阪へ開拓に出られたり、他の先生方が抜けていくので、結果的には会堂建設に結晶するのですが。そして、確かに500名入る会堂は建ちました。

では、どうしてこのような成長が具体化したのでしょうか。理由はハッキリしました。伝道に次ぐ伝道。これだけでした。年譜をよくご覧頂きたいと思えます。毎月のように、あちこちで伝道集会を行います。それが一人、また一人と魂を刈り取ったのです。

心が燃えてきました。以前、京都中央チャペル・スタウロス（十字架）・プランをぶち上げたことがあります。 - HOUSEは十字架の交点です。

そして、四方に宣教の手を伸ばすというものでした。いよいよ、トライする時期になったようです。北、東、南、西に文化会館があります。伝道の働きに鋤入れを始めたいと思えます。来年開始します。

